市長雑感

(63)

二十億費やし半年まだ暮れず

広報紙に毎月連載をいただいている〝古今川柳漫歩〟の作者、阿達先生の最新作「昭和貨幣物価史」という本の贈呈を受け、読ましていただいた。日本の貨幣史、貨幣価値の対比、また昭和初期の金融恐慌からみた政治の動きなど当時の世相を川柳等をまじえ見事にとらえた力作だけに、興味深く熟読させてもらった。

例えば――

●一銭のことで子守は疑われ

●闇米も台所へ売りに来て百二十円……というものから

●OLのあせり億の使い込み

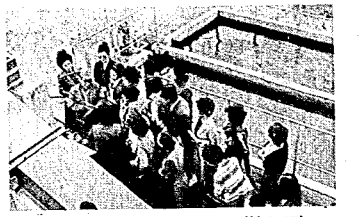
――といった具合いで、貨幣価値の変せんが手にとるようにわかる。昭和初期、一銭五厘のハガキの話しもさることながら、こう世の中が不景気になってくると、昔の良い想い出しかり、苦しい想い出しかりでやるせなさがついてまわる。

いま、全国の地方自治体では、財政危機を如何にして突破するか、どう工夫、手だてをしてこの難局を切り抜けるかに頭をかかえている。川柳流ではないが〝二十億費やし半年まだ暮れず〟の感で、私どもの市でも、五十年度財政の見通しについては、相当きびしい評価をくださざるを得ない状態である。国が手だてをする超過負担の解消ももちろんだが、まず危機突破の自衛策の検討がせまられ、年度途中、異例ともいえる通達を出し、全職員が徹底した予算の抑制措置を講ずるよう指示したところである。もちろん、市民生活に直結した事業等のストップはあり得ないが、緊急度の薄いものは当然見送らざるを得ないことになる。

こうした地方財政危機突破のため、去る十月二日、全国市長会が臨時に開催され、その対応策を真剣に論議してきたところであるが、当日来賓として出席した三木総理は、「都市行政が生活関連施設の整備、社会福祉施策の充実等市民生活に直結している立場を十分尊重して、その財政運営に支障のないよう努力する」というあいさつがあった。さらに同席した自治大臣も「地方税あるいは地方交付税で落ち込む分は補てん措置を講じる」という、きわめて積極的な地方財政へのてこ入れの発言に接しはしたが、現職の総理あるいは担当大臣だけに、〝いいかげんでは許せないこの発言〟とでもいっておこうか…。

ともあれ、この財政ピンチを全職員一丸となって切り抜け、市民生活の安定をめざして東奔西走していることを理解いただきたい。

志田係



係員の説明に真剣な顔（焼却場）

（浄水場）

ひとり市長懇談

さわやかな秋晴れにめぐまれた十月十七日、「施設めぐりと市長懇談」が行われました。

最初に、現在一番問題になっている〝ゴミ処理〟はどうなっているのかと、廃棄物処理センターを見学。係員の説明を聞きながら、ゴミ処理がバカにできない問題であることを、あらためて確認していました。

特に、炉の中から取り出されたジュースやコーラのあき缶の山には全員ビックリ。参加者の間から、「これじゃ、炉が痛んでしまうわネ。」「燃えるゴミと燃えないゴミは、よく選別して出さなければ…」という声があがります。

次の浄水場では、みなさんかたさがほぐれたのか、活発な質問がとび出ます。

「ABS洗剤の心配は…」

「赤水やにごり水は…」

「阿賀野川の水銀は大丈夫かしら…」　係員がユーモアたっぷりに、一つひとつ疑問に答えていきます。最後には、こんなユーモラスなやりとりも…。

「沈砂池の中に魚が泳いでいますけど…」

「大丈夫です。ご家庭の蛇口から、魚が出てくるようなことはありません。」

昼食は、今回はじめて見学日程に組み入れられた学校給食共同調理場で。食事をしながら市長と懇談です。

メニューは、パン、マーガリン、ポタージュ、牛乳、オレンジゼリーと、小学生と同じもの。お子さんと同じものをたべてみて、「味もいいし、ボリュームもあるワ」と、安心された様子です。

市長懇談では、やはりゴミ問題に話題が集中。参加者は主婦のかたがほとんどでしたが、家庭でもゴミが切実な問題になっていることを、よく表わしています。

最後に参加者のかたから一言。「ほかの県や市町村を見てきましたけど、ゴミの出し方は、新津市民が一番ヘタなようですネ。」新津市民にとっては、耳の痛い指摘です。

見学の最後は、七日町にある県園芸試験場。新津市にあっても、県の施設であるため、一般の人は、見学する機会がなかなかありません。

色とりどりの花が咲き乱れる中に、プーンとかぐわしい香り。ちょうど、さわし柿の実験の最中でした。

広い場内を散策することも十分。とても全部は見切れませんでしたが、なし、ぶどう、くり、りんご、柿、メロンと、いくら見てもあきません。思わず、「今度、お弁当を持って、ハイキングにこようかしら」などと、冗談もとび出します。

全日程を終えて、ある参加者のかたは、「長年、新津市に住んでいても、めったに施設を見る機会がありませんからネエ。こういう企画は、ぜひ必要だと思いますよ。実際、自分の目で見ないとわからないですからネ。特にゴミ処理なんかは、自分の問題として考えていかなければダメですネ。」と感想を話してくれました。

遠慮なく想談しましょう。

なお市では、保険料の納付などに、銀行や農協などの預金口座から金融機関が代って納める「口座振替」という制度もあります。

おわび　先号紙上（十頁）の国民年金特例納付の記事中、次の誤植がありましたので訂正してお わびします。

●十五年年金を…十年年金に

●昭和十五年四月一日以後に生まれた人の場合は…を以前に

なお年金額の表は、強制加入者、つまり必ず加入しなければならない人の年金額です。

お買物、ご用命は市内で

果実・贈答品
駅前 八百勘
TEL (3)1361

◆御注意下さい◆
悪質な販売業者や　ニセの消防署員の売りつけの被害が発生しております。消火器の御用命は地元の公認登録店へ御相談下さい。
株式会社 小林防災商会
新津市新町1丁目6番33号　TEL 新津(代)2－1607

花芸

味はどんなかな？（給食センター）

思わず身を乗りだ

市長と一緒に記念写真（給食センター）

見事なキャベツに魅せられて（園芸試験場）

よく知ろうネ！国民年金を…

年金のはなし

民間地区組織の巻（取りまとめ組合など）

保険料などを期限のたびに納めるのがわずらわしい、日中は不在がちで納め忘れることが多い、いつも仕事におわれて――こんな人たちのためみなさんの地域には、年金や国保料などを集金したりしてくれる民間地区組織があります。取りまとめ組合や納税組合、などと呼んでいるものがそれです。

ところで国民年金は、職場でいろいろと手続きをしてくれる厚生年金保険と違って、それぞれの加入者が、自分で必要な届け出や保険料の納付をしなければなりません。それも、届け出や保険料の納付をおこたると、とりかえしのつかない結果にもなりかねません。というのは、納期限から二年たってしまうと〝時効〟といって、保険料を納めたくても納められなくなることです。それにもう一つ、本人からの届け出です。これは、たとえば会社などに勤めている間は職場年金（厚生年金保険など）に入ることになるのですが、いったん勤めをやめて農業や商業などを始めることになると、国民年金への加入が必要になってきますから、その手続きというわけです。これらのどちらも忘れたりすると、将来、年金を受けるときになって、大きく影響してくるからです。

国民年金に加入している人たちは、農家のかた、商業のかた、無職あるいは収入の時期が一定しないかたなど、いろいろです。ですから、加入者にとって期限ごとの納付や加入・変更の手続きなどは、とっても大変なことです。

みなさんの地域にある取りまとめ組合などは、このような人たちの相談あるいは連絡から、納期限が近づくと加入者のお宅を回っては保険料を集めたりして、将来年金をもらえない人が一人もいないように活躍しています。

ぜひみんなで、国民年金についての理解を深め、わからないことがあったら各地域に年金委員もおられますので、

お買物、ご用命は市内で

駐車場完備
胃腸・皮膚・肛門(ぢ)・泌尿・X線
山田外科医院
新町2丁目1―6　TEL(2)0432
小出医院　森川医院　駅　至水原　大坂医院　小林歯科　山田外科